

投資信託説明書 (交付目論見書)

使用開始日 2023.4.22

三菱UFJ グローバルバランス (積極型) / (安定型)

〈愛称:未来地図〉

追加型投信 / 内外 / 資産複合

※ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

| 商品分類 | | | 属性区分 | | | | |
|---------|--------|-------------------|--------|----------|------------------|---------------|-----------|
| 単位型・追加型 | 投資対象地域 | 投資対象資産 (収益の源泉) | 投資対象資産 | 決算 頻度 | 投資対象地域 | 投資 形態 | 為替 ヘッジ |
| 追加型 | 内外 | 資産複合 | その他資産 | 年1回 | グローバル (日本を含む) | ファミリー ファンド | なし |

※属性区分の「投資対象資産」に記載されている「その他資産」とは、投資信託証券(資産複合(株式、債券))です。

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しています。

※商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)でご覧いただけます。

- 本書は、金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書です。
- ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)を含む詳細な情報は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。
- 本書には、約款の主な内容が含まれていますが、約款の全文は請求目論見書に掲載されています。
- ファンドの商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認します。
- ファンドの財産は、信託法に基づき受託会社において分別管理されています。
- 請求目論見書は、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。(請求目論見書をご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようお願いいたします。)

この目論見書により行う「三菱UFJ グローバルバランス(積極型)」、「三菱UFJ グローバルバランス(安定型)」の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2022年10月21日に関東財務局長に提出しており、2022年10月22日に効力が生じております。

委託会社:三菱UFJ国際投信株式会社*

※2023年10月1日より商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更します。

ファンドの運用の指図等を行います。

金融商品取引業者:関東財務局長(金商)第404号

設立年月日:1985年8月1日

資本金:20億円

運用投資信託財産の

合計純資産総額

(2023年1月31日現在)

ホームページアドレス

<https://www.am.mufg.jp/>

お客さま専用フリーダイヤル

0120-151034 (受付時間:営業日の9:00~17:00)

受託会社:三菱UFJ信託銀行株式会社

ファンドの財産の保管・管理等を行います。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

「三菱UFJ グローバルバランス(積極型)」

日本を含む世界の株式・債券を実質的な主要投資対象とし、中長期的な経済シナリオに基づき適切なアセットアロケーションを行うことにより、中長期的に着実な値上がり益の獲得をめざします。

「三菱UFJ グローバルバランス(安定型)」

日本を含む世界の株式・債券を実質的な主要投資対象とし、中長期的な経済シナリオに基づき適切なアセットアロケーションを行うことにより、中長期的に安定的な値上がり益の獲得をめざします。

ファンドの特色

特色

1

日本を含む世界の株式・債券にバランスよく投資します。

マザーファンドを通じて「日本株式」、「日本債券」、「外国株式」、「外国債券」の4つの資産に分散投資を行います。

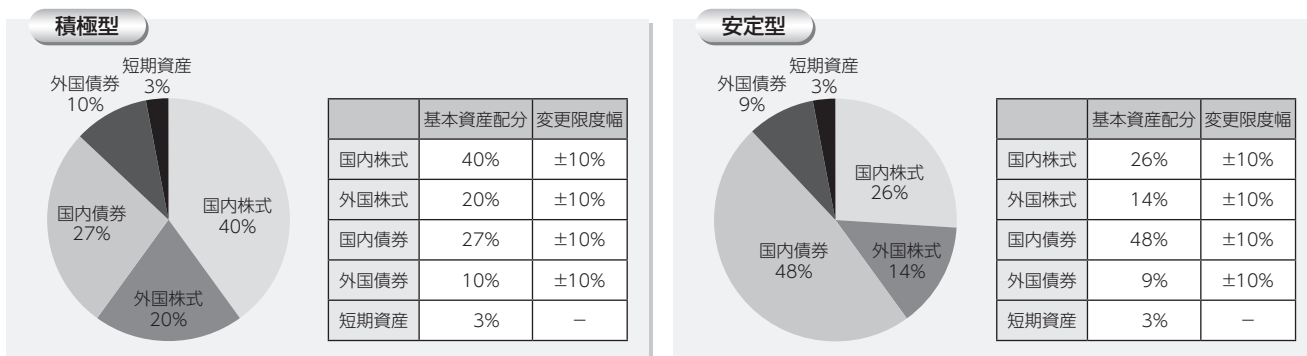
特色

2

株式投資比率の異なる「積極型」と「安定型」の2つのファンドからお選びいただけます。

| ファンド名 | 株式への基本資産配分 | 特徴 |
|----------------------|------------|----------------------------|
| 三菱UFJ グローバルバランス(積極型) | 60% | 安定性を重視しつつ、成長性も追求した運用を行います。 |
| 三菱UFJ グローバルバランス(安定型) | 40% | 安定性を重視した運用を行います。 |

◎ 資産配分のイメージ図



※各ファンドの資産配分は、短期経済シナリオ、投資環境分析等により、原則、基本資産配分±変更限度幅の範囲内で決定されます。なお、上記の資産配分は、各マザーファンドへの投資比率を示したものです。

※中長期的な経済シナリオが変化すると判断した場合は、基本資産配分を見直すことがあります。

各ファンドは無手数料でスイッチング(乗換)が可能です。ただし、スイッチングの際に換金するファンドの基準価額から信託財産留保額(当該基準価額の0.3%)および税金が差し引かれます。



各ファンドの資産配分については、MU投資顧問株式会社の投資助言を受けます。

■MU投資顧問株式会社

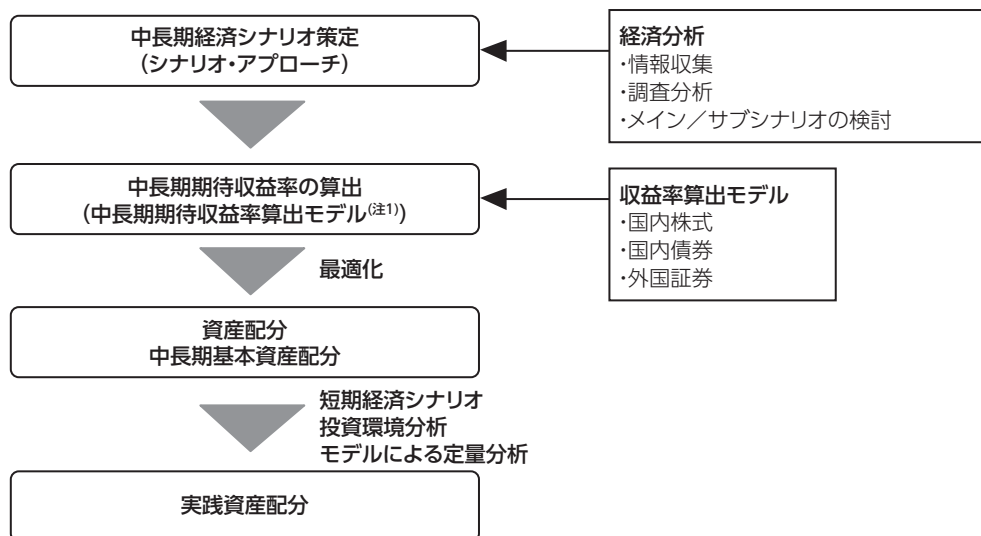
MUFGグループにおいて、年金資産(企業年金・公的年金等)の投資一任運用を中核業務とする資産運用会社。

1985年の創業以来、MUFGグループのグローバルな情報ネットワークを活用しつつ、徹底したファンダメンタルズ分析に基づいたアクティブ運用を行い、中長期的に市場を上回る投資成果をめざした運用を行っています。

* MU投資顧問株式会社は、有価証券投資における運用・営業等の関連機能を、2023年10月1日付で三菱UFJ国際投信株式会社(2023年10月1日付で三菱UFJアセットマネジメント株式会社に商号変更予定)へ統合する予定です。

※ 投資助言者、投資助言の内容、投資助言の有無等については、変更する場合があります。

■資産配分の決定プロセス



(注1) 中長期期待収益率算出モデル

各経済シナリオ毎に定めた日米欧各国の経済成長率、インフレ、金融政策、経常収支等を基に、日米欧の各資産の期待収益率を算出します。最終的に各シナリオの生起確率で加重平均し、中長期の期待収益率を算出します。

☞ 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>)でご覧いただけます。

■「日本株式マザーファンド」の運用について

| | |
|--------|---|
| 運用目標 | 東証株価指数 (TOPIX) ^(注2) をベンチマーク ^(注3) とし中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。 |
| 投資対象 | 投資対象は国内の上場株式等です。外国株式への投資は行いません。 |
| 運用方法 | 徹底的なボトムアップによる銘柄選定を行います。銘柄選定にあたっては、主として企業の利益成長性に着目します。業績動向やバリュエーション等の観点で一定の条件を満たす銘柄群の中から、企業訪問等による徹底的な調査を経て組入銘柄を決定します。ポートフォリオの業種分散は東証株価指数 (TOPIX) の業種比率を参考にしますが、各業種の利益成長性なども勘案して調整します。株式組入比率は高位を維持することを基本とし、市況動向に合わせて比率を上下させることはしません。 |
| 運用プロセス | <pre> graph TD A[国内上場銘柄] --> B[第1次選別] B --> C[第2次選別] C --> D[ファンド組入] E[サブセクター分析 業種内での相対的優位度 業種動向 バリュエーション など] --> B F[企業訪問等による調査] --> C </pre> |

(注2) 東証株価指数 (TOPIX) とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

(注3) ベンチマークとは、ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標です。

■「日本債券マザーファンド」の運用について

| | |
|--------|---|
| 運用目標 | NOMURA-BPI総合インデックス ^(注4) をベンチマークとし、同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。 |
| 投資対象 | 投資対象は国内の公社債・金融商品です。外貨建ての債券・金融商品への投資は行いません。 |
| 運用方法 | ポートフォリオのデュレーション ^(注5) は、ベンチマークの平均を中心に調整します。デュレーション調整は主にファンダメンタルズ分析に基づく中期的な金利見通しに沿って行います。組入債券の格付はA格相当以上 (S&Pグローバル・レーティング、ムーディーズ・インベスターズ・サービス、格付投資情報センター、日本格付研究所のうちいずれかから取得) とします。銘柄選定は信用リスクと金利スプレッドを定量的・定性的に分析して行います。 |
| 運用プロセス | <pre> graph TD subgraph Duration_Control [デュレーション・コントロール] A[内外のファンダメンタルズ・マクロビュー] --> B[金利見通し] B --> C[ポートフォリオのデュレーション決定] end subgraph Stock_Selection [銘柄選定] D[個別銘柄分析・社内信用格付] --> E[スプレッドの割安・割高判断] E --> F[個別銘柄選定] end C --> G[ポートフォリオの構築] F --> G </pre> |

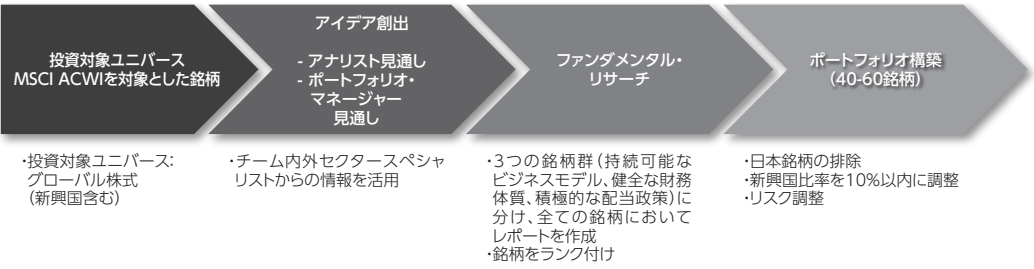
(注4) NOMURA-BPI総合インデックスとは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注5) デュレーションとは、債券の投資元本の回収に要する平均残存期間や金利感応度を意味する指標です。この値が大きいくほど、金利変動に対する債券価格の変動率が大きくなります。

■「外国株式マザーファンド」の運用について

ファンドの運用は、ブラックロック・インベストメント・マネジメント(UK)リミテッドに委託します。

※ 運用の指図に関する権限の委託を受ける者、委託の内容、委託の有無等については、変更する場合があります。

| | |
|--------|--|
| 運用目標 | MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイ インデックス)(円換算ベース) ^(注6) をベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。 |
| 投資対象 | 投資対象は日本を除く世界各国の株式です。 |
| 運用方法 | 運用担当者自らがボトムアップ・リサーチによる銘柄選定重視のアクティブ運用を行います。地域配分・銘柄選定の双方より超過収益の獲得をめざしますが、より銘柄選定に比重を置いた運用を行います。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 株式組入比率は高位を維持することを基本とします。 |
| 運用プロセス |  <p>投資対象ユニバース: MSCI ACWIを対象とした銘柄</p> <p>アイデア創出 - アナリスト見通し - ポートフォリオ・マネージャー見通し</p> <p>ファンダメンタル・リサーチ</p> <p>ポートフォリオ構築 (40-60銘柄)</p> <p>・投資対象ユニバース: グローバル株式 (新興国含む) ・チーム内外セクタースペシャリストからの情報を活用 ・3つの銘柄群(持続可能なビジネスモデル、健全な財務体質、積極的な配当政策)に分け、全ての銘柄においてレポートを作成・銘柄をランク付け ・日本銘柄の排除 ・新興国比率を10%以内に調整 ・リスク調整</p> |

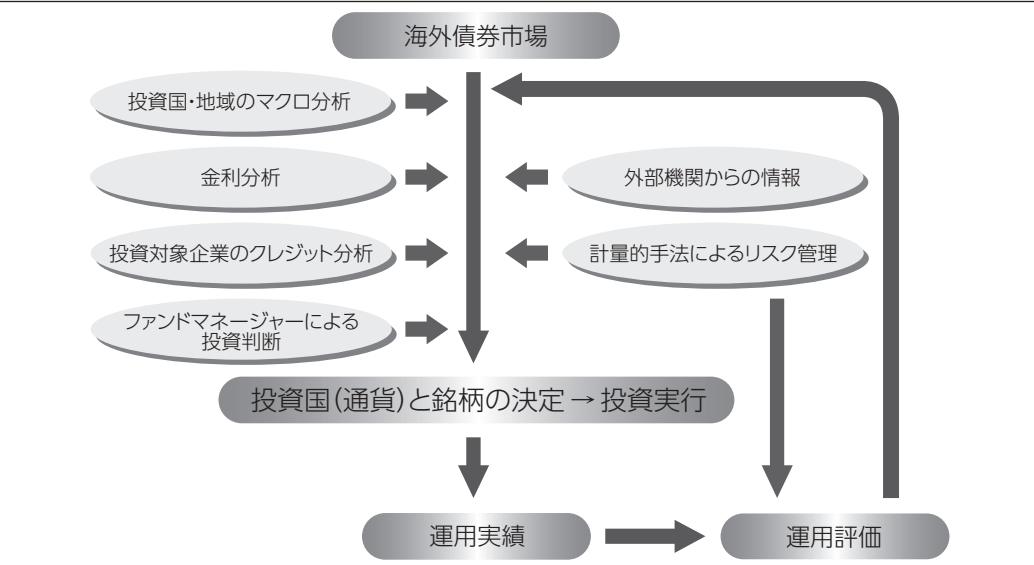
(注6) MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイ インデックス)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。

MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイ インデックス)(円換算ベース)は、MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイ インデックス)(米ドルベース)をもとに、委託会社が計算したものです。

また、MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイ インデックス)に対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

※ MSCI ACWI(MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックス)はMSCI Worldに新興国を加えたもので構成されています。

■「三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド」の運用について

| | |
|--------|--|
| 運用目標 | FTSE世界国債インデックス(除く日本・円ベース) ^(注7) をベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。 |
| 投資対象 | 投資対象は日本を除く世界主要国の公社債です。 |
| 運用方法 | 運用にあたっては、各国のマクロ分析や金利予測に基づいて、カンントリーアロケーション、デュレーションおよび残存構成のコントロール、利回り較差に着目した銘柄選定でアクティブに超過収益の獲得をめざします。 さらに、ポートフォリオとベンチマークを比較分析することにより、リスクのチェックとコントロールを行います。組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。ただし、エクスポージャーのコントロール等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。公社債の組入比率は高位(通常の状態90%以上)を基本とします。 |
| 運用プロセス |  <p>海外債券市場</p> <p>投資国・地域のマクロ分析</p> <p>金利分析</p> <p>投資対象企業のクレジット分析</p> <p>ファンドマネージャーによる投資判断</p> <p>外部機関からの情報</p> <p>計量的手法によるリスク管理</p> <p>投資国(通貨)と銘柄の決定 → 投資実行</p> <p>運用実績 → 運用評価</p> |

(注7) FTSE世界国債インデックス(除く日本・円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っていません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

ブラックロック・インベストメント・マネジメント(UK)リミテッドについて

■会社概要

ブラックロック・インベストメント・マネジメント(UK)リミテッドは、ブラックロック・インク(ニューヨーク証券取引所に上場)の英国現地法人であり、高い専門性に基づいた資産運用サービスを提供しています。

■リサーチ能力

運用と調査は不可分であるとの考えに基づき、運用担当者(ファンドマネジャー)は、調査担当者を兼任しています。株式投資においては、ファンドマネジャーが企業訪問等独自の調査を行い、この結果に基づいて、銘柄選定、業種配分、地域別配分等を決定します。

■運用哲学

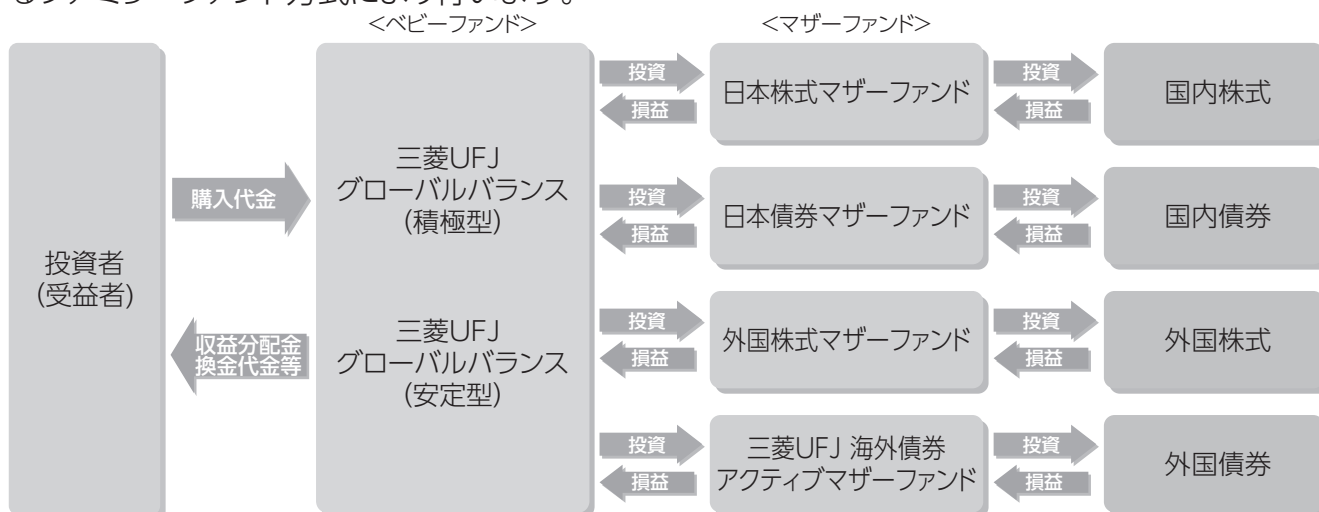
アクティブ運用に際して、超過収益の源泉は「市場の非効率的な点を発見し、これを資産配分と銘柄の選別に活用すること」にあると考え、徹底した独自の調査をします。

■グローバルな運用体制

外国株式の運用については、世界に展開するブラックロック・グループの調査活動により、世界全般の市場を対象として投資の機会を追求しています。

■ ファンドの仕組み

運用は主に各マザーファンドへの投資を通じて、日本を含む世界の株式・債券へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。



■ 主な投資制限

「三菱UFJ グローバルバランス(積極型)」

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の70%未満とします。
- ・同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ・外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

「三菱UFJ グローバルバランス(安定型)」

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以下とします。
- ・同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ・外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以下とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

■ 分配方針

- ・年1回の決算時(7月22日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円(10,000口当たり)を超えている場合に、当期の基準価額上昇分の範囲内で分配します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。



投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けませんが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式や組入公社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

為替変動 リスク

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。

信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

流動性 リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

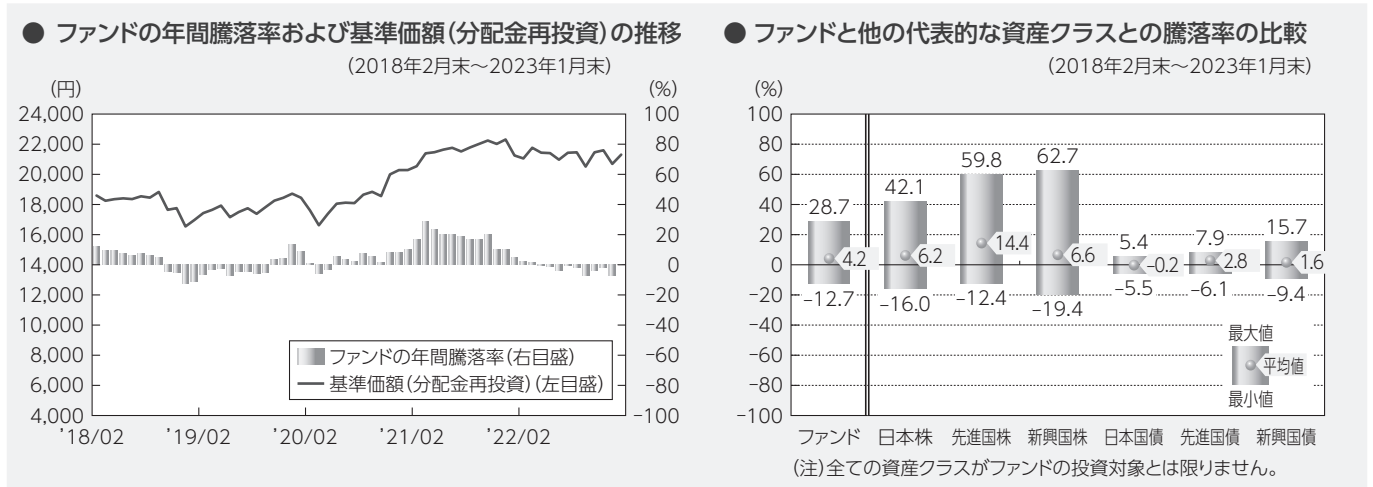
■リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、ファンド管理委員会およびリスク管理委員会において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。リスク管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。なお、運用委託先で投資リスクに対する管理体制を構築していますが、委託会社においても運用委託先の投資リスクに対する管理体制や管理状況等をモニタリングしています。

■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

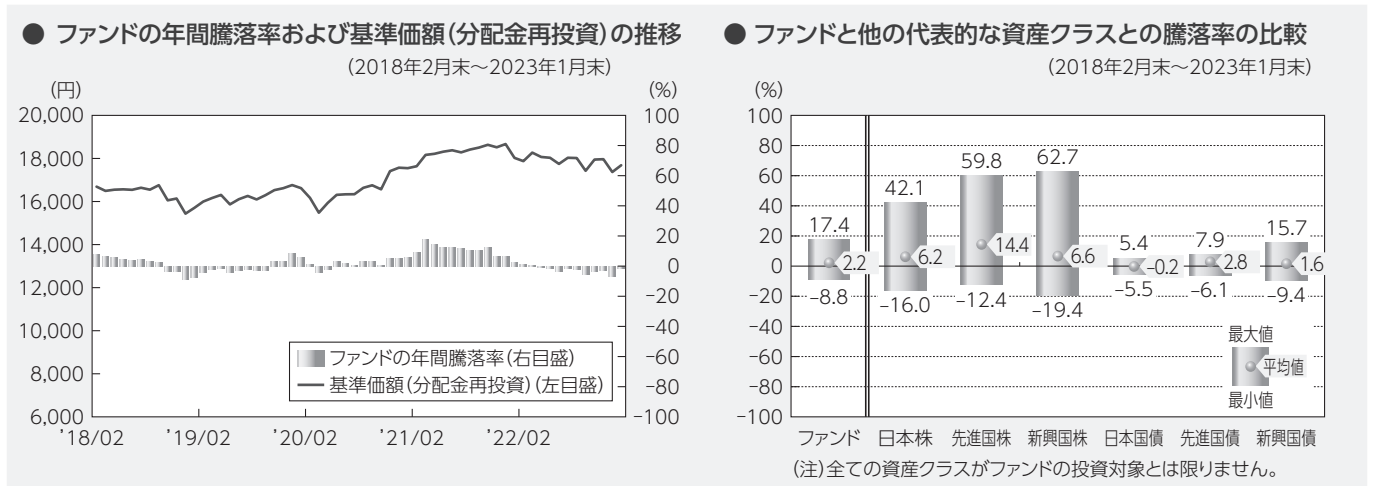
下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

三菱UFJ グローバルバランス(積極型)



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

三菱UFJ グローバルバランス(安定型)



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

代表的な資産クラスの指数について

| 資産クラス | 指数名 | 注記等 |
|-------|--------------------------------|---|
| 日本株 | 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) | 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。 |
| 先進国株 | MSCIコクサイ・インデックス (配当込み) | MSCIコクサイ・インデックス (配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。 |
| 新興国株 | MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み) | MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。 |
| 日本国債 | NOMURA-BPI (国債) | NOMURA-BPI (国債)とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI (総合)のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。 |
| 先進国債 | FTSE世界国債インデックス (除く日本) | FTSE世界国債インデックス (除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。 |
| 新興国債 | JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド | JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。 |

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

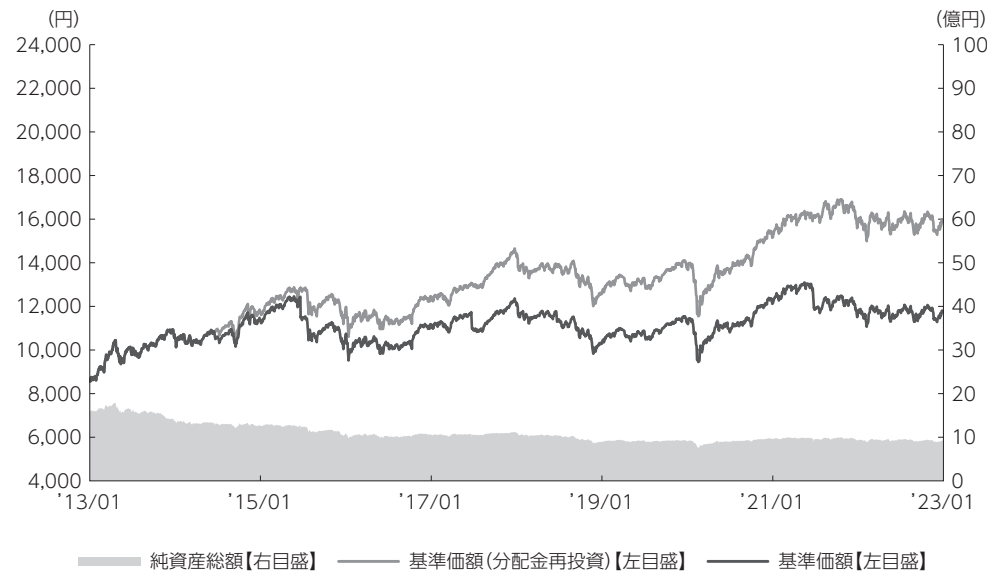


運用実績

2023年1月31日現在

三菱UFJ グローバルバランス(積極型)

■基準価額・純資産の推移 2013年1月31日～2023年1月31日



- 基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

| | |
|-------|---------|
| 基準価額 | 11,742円 |
| 純資産総額 | 9.1億円 |

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

| | |
|---------|--------|
| 2022年7月 | 0円 |
| 2021年7月 | 1,000円 |
| 2020年7月 | 250円 |
| 2019年7月 | 0円 |
| 2018年7月 | 350円 |
| 2017年7月 | 700円 |
| 設定来累計 | 6,850円 |

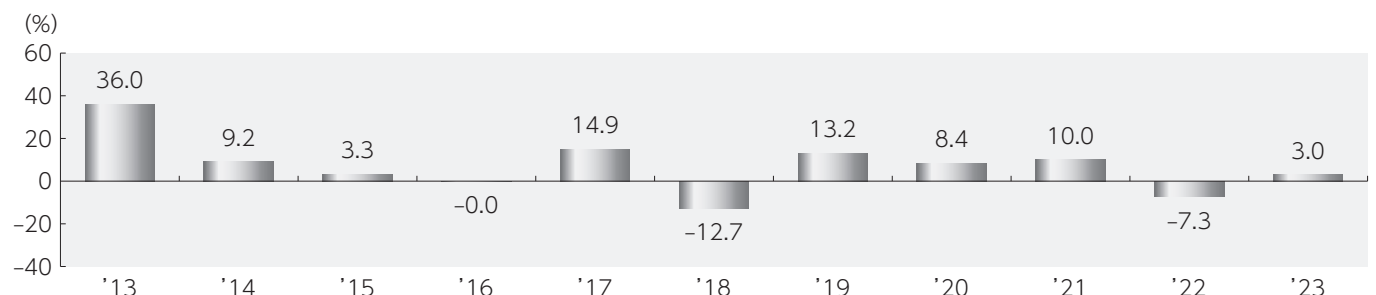
●分配金は1万口当たり、税引前

■主要な資産の状況

| 資産別構成 | 比率 | 組入上位通貨 | 比率 | 組入上位銘柄 | 種類 | 業種/種別 | 国・地域 | 比率 |
|--------------------|--------|--------------|-------|---------------------|----|-------|------|------|
| 国内株式 | 38.1% | 1 円 | 70.2% | 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 株式 | 銀行業 | 日本 | 1.7% |
| 国内債券 | 26.9% | 2 アメリカドル | 13.8% | 第一三共 | 株式 | 医薬品 | 日本 | 1.7% |
| 外国株式 | 18.5% | 3 ユーロ | 7.8% | 三井物産 | 株式 | 卸売業 | 日本 | 1.5% |
| 外国債券 | 10.5% | 4 イギリスポンド | 3.0% | ソニーグループ | 株式 | 電気機器 | 日本 | 1.4% |
| | | 5 ニュー台湾ドル | 0.9% | 東京エレクトロン | 株式 | 電気機器 | 日本 | 1.0% |
| | | 6 スイスフラン | 0.8% | 第350回利付国債(10年) | 債券 | 国債 | 日本 | 0.8% |
| | | 7 メキシコペソ | 0.8% | 第360回利付国債(10年) | 債券 | 国債 | 日本 | 0.8% |
| | | 8 中国元 | 0.4% | 0 ITALY GOVT 260401 | 債券 | 国債 | イタリア | 0.7% |
| コールローン他 (負債控除後) | 6.0% | 9 シンガポールドル | 0.4% | 第369回利付国債(10年) | 債券 | 国債 | 日本 | 0.6% |
| 合計 | 100.0% | 10 デンマーククローネ | 0.4% | 第6回マラヤン・バンキング | 債券 | 社債 | 日本 | 0.6% |

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- 「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移

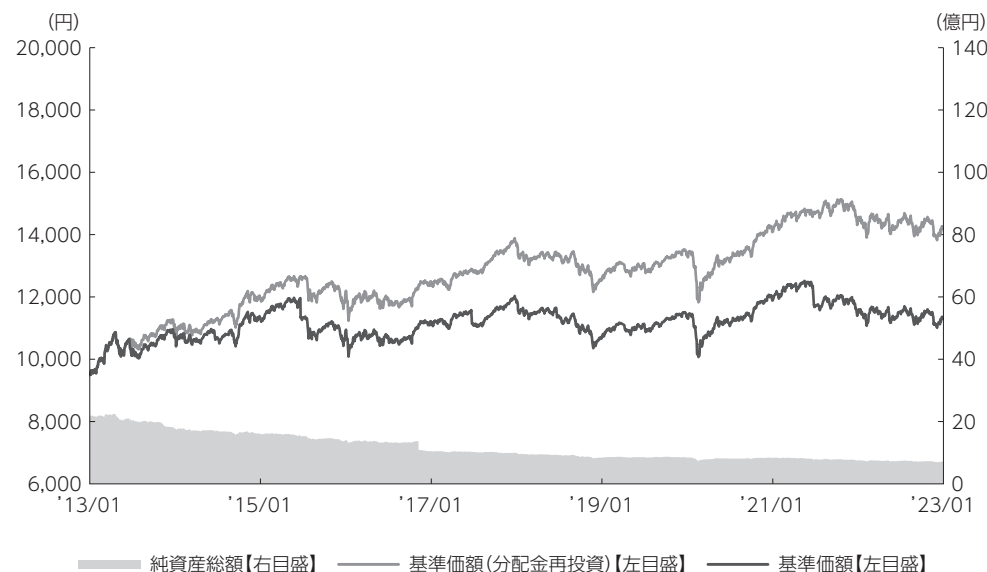


- 収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- 2023年は年初から1月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

三菱UFJ グローバルバランス(安定型)

■基準価額・純資産の推移 2013年1月31日～2023年1月31日



- 基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- 基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

■基準価額・純資産

| | |
|-------|---------|
| 基準価額 | 11,300円 |
| 純資産総額 | 7.1億円 |

●純資産総額は表示桁未満切捨て

■分配の推移

| | |
|---------|--------|
| 2022年7月 | 0円 |
| 2021年7月 | 700円 |
| 2020年7月 | 100円 |
| 2019年7月 | 0円 |
| 2018年7月 | 200円 |
| 2017年7月 | 400円 |
| 設定来累計 | 5,050円 |

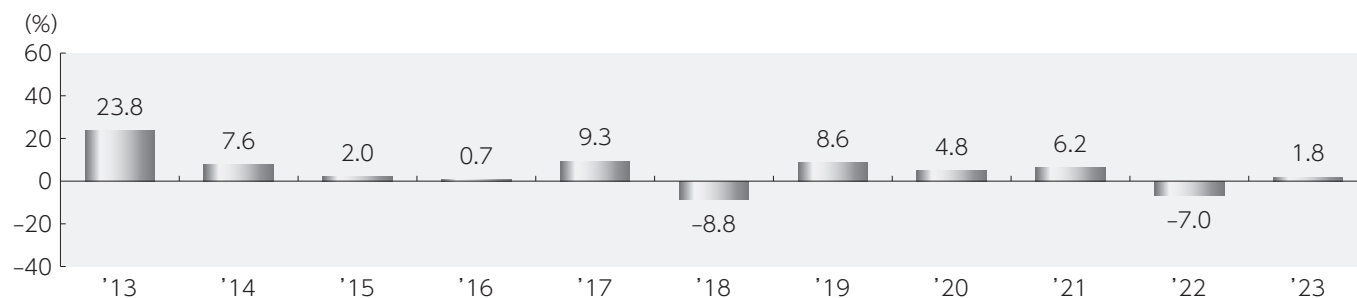
●分配金は1万口当たり、税引前

■主要な資産の状況

| 資産別構成 | 比率 | 組入上位通貨 | 比率 | 組入上位銘柄 | 種類 | 業種/種別 | 国・地域 | 比率 |
|--------------------|--------|---------------|-------|--------------------|----|-------|------|------|
| 国内株式 | 24.9% | 1 円 | 77.0% | 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 株式 | 銀行業 | 日本 | 1.1% |
| 国内債券 | 47.4% | 2 アメリカドル | 10.5% | 第一三共 | 株式 | 医薬品 | 日本 | 1.1% |
| 外国株式 | 12.8% | 3 ユーロ | 6.3% | 三井物産 | 株式 | 卸売業 | 日本 | 1.0% |
| 外国債券 | 9.6% | 4 イギリスポンド | 2.2% | ソニーグループ | 株式 | 電気機器 | 日本 | 0.9% |
| | | 5 ニュー台湾ドル | 0.7% | 東京エレクトロン | 株式 | 電気機器 | 日本 | 0.7% |
| | | 6 メキシコペソ | 0.6% | 第350回利付国債(10年) | 債券 | 国債 | 日本 | 1.5% |
| | | 7 スイスフラン | 0.6% | 第360回利付国債(10年) | 債券 | 国債 | 日本 | 1.4% |
| | | 8 中国元 | 0.4% | 第369回利付国債(10年) | 債券 | 国債 | 日本 | 1.1% |
| コールローン他 (負債控除後) | 5.3% | 9 シンガポールドル | 0.3% | 第6回マラヤン・バンキング | 債券 | 社債 | 日本 | 1.1% |
| 合計 | 100.0% | 10 スウェーデンクローネ | 0.3% | 第16回イオンフィナンシャルサービス | 債券 | 社債 | 日本 | 1.1% |

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 投資信託証券(リートを含む)の組入れがある場合、株式に含めて表示
- コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの
- 「国・地域」は原則、発行通貨ベースで分類しています。(ただし、発行通貨がユーロの場合は発行地)

■年間収益率の推移




- 収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- 2023年は年初から1月31日までの収益率を表示
- ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。



手続・手数料等

■お申込みメモ

| | | |
|--|-------------------|---|
|  購入時 | 購入単位 | 販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。 |
| | 購入価額 | 購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万円当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。 |
| | 購入代金 | 販売会社が指定する期日までにお支払いください。 |
|  換金時 | 換金単位 | 1口単位 |
| | 換金価額 | 換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額 |
| | 換金代金 | 原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。 |
|  申込について | 申込締切時間 | 原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。 |
| | 購入の申込期間 | 2022年10月22日から2023年10月23日まで ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新される予定です。 |
| | 換金制限 | ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。 |
| | 購入・換金申込受付の中止及び取消し | 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 |
|  その他 | 信託期間 | 無期限(1998年12月2日設定) |
| | 繰上償還 | 以下の場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。 ・各ファンドについて、受益権の口数が10億口を下回るようになった場合 ・ファンドを償還させることが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき |
| | 決算日 | 毎年7月22日(休業日の場合は翌営業日) |
| | 収益分配 | 年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、全額再投資されます。 |
| | 信託金の限度額 | 各ファンド2,500億円 |
| | 公告 | 原則として、電子公告の方法により行い、ホームページ(https://www.am.mufg.jp/)に掲載します。 |
| | 運用報告書 | 毎決算後および償還後に交付運用報告書が作成され、販売会社を通じて知れている受益者に交付されます。 |
| | 課税関係 | 課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、「NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)」の適用対象です。 ■三菱UFJ グローバルバランス(積極型): 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 ■三菱UFJ グローバルバランス(安定型): 配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。 |

■ファンドの費用・税金



ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

| | | | |
|---|---------------------------------|---|---------------------------------|
| 購入時手数料 | 支払先 | 購入時手数料 | 対価として提供する役務の内容 |
| | 販売会社 | 購入価額に対して、 <u>上限2.2%(税抜 2%)</u> (販売会社が定めます) | ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等 |
| (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。) | | | |
| 信託財産留保額 | 換金申込受付日の基準価額に <u>0.3%</u> をかけた額 | | |

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

| | | | |
|--|---|--------|---|
| 運用管理費用 (信託報酬) | 日々の純資産総額に対して、 <u>年率1.782%(税抜 年率1.62%)</u> をかけた額 | | |
| | 1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (保有日数 / 365) | | |
| | ※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。 | | |
| | 各支払先への配分(税抜)は、次の通りです。 | | |
| | 支払先 | 配分(税抜) | 対価として提供する役務の内容 |
| | 委託会社 | 0.84% | ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等 |
| | 販売会社 | 0.7% | 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等 |
| | 受託会社 | 0.08% | ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等 |
| ※上記各支払先への配分には、別途消費税等相当額がかかります。 | | | |
| ●運用指図権限の委託先への報酬 委託会社が受ける報酬から、原則として毎年1・7月の22日から15営業日以内ならびに償還時に支払われ、その報酬額は、各ファンドの計算期間を通じて毎日、外国株式マザーファンドの純資産総額のうち各ファンドに属するとみなした額に年率0.45%をかけた額とします。 | | | |
| その他の費用・手数料 | 以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。 <ul style="list-style-type: none"> ・監査法人に支払われるファンドの監査費用 ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・その他信託事務の処理にかかる諸費用 等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。 | | |

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。



税金

税金は以下の表に記載の時期に適用されます。この表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

| 時期 | 項目 | 税金 |
|---------------|-----------|---|
| 分配時 | 所得税および地方税 | 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315% |
| 換金(解約)時および償還時 | 所得税および地方税 | 譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315% |

※上記は2023年1月末現在のものです。

※「NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)」をご利用の場合

毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。くわしくは、販売会社にお問合わせください。

※分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等に確認されることをお勧めします。



目論見書を読み解くガイド

<https://www.am.mufg.jp/service/faqpoint/index.html>